

2月^するりに澄む

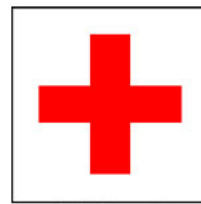
令和7年度 原山中だより

【第10号】令和8年1月31日発行

尊厳を守る

校長 遠藤 敏恵

先日、日本赤十字社国際部でお仕事をされている片岡昌子さんという方のご講演を、拝聴する機会をいただきました。『赤十字』とは、スイス人のアンリー・デュナンさんが提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域で活動されている人道組織です。日本赤十字社はそのうちの 하나로、1887年に日本で起きた西南戦争で初めて負傷者救護活動を行って以来、国内外における災害救護をはじめ、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動されています。右に示した『赤十字マーク』は、多くの皆さんが1度は目にすることがあると思いますが、紛争で傷ついた人びとを救護する軍の衛生部隊や赤十字の救護員・施設等を識別するためのマークです。その使用方は、国際法や国内法で厳格に定められていて、勝手に使用したりすることが許されているものではありません。



赤十字マーク

講師の片岡さんは、災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、日本赤十字社より派遣され、紛争が起きているアジアや中東等の国々で、緊急時の救援や復興支援、予防活動に取り組んでこられたそうです。今世界では、国家間紛争や武装紛争件数は、第2次世界大戦以降右肩上がり、2024年末時点で過去最高を更新しています。それに付随して、世界の難民・避難民の数も過去最多を更新し続けていて、紛争や迫害によって故郷を追われた人の数は、1億2,320万人（2024年末時点）に達しています。これは日本の総人口に相当する人々が、避難を強いられているということで、とても深刻な状況なのです。片岡さんのお話の中で、特に心に残ったのが、「私たち（日本赤十字社）の使命は、いかなる状況下においても、苦しんでいる人々の、いのちと健康、尊厳を守ることです」という言葉でした。『いのち』や『健康』と一緒に『尊厳』という言葉が使われたことにハッとしました。

『尊厳』とは、どの人も一人の個として尊重され、自分のことを自分で決めながら、その人らしい生き方を全うしていくことで、他人による侵害や侮辱によって奪われるようなことがあってはならない、『いのち』と同じくらい大切なものなのだというのに、片岡さんのお話を伺い改めて気づかされました。3年生はもうすぐ、それぞれが悩みながら選んだ進路を歩んでいくことになり、1・2年生も、それぞれ進級の時期を迎え、新たな道を選択していくことになります。朝晩まだまだ寒い日が続きますが、もうすぐ春です。正門の桜の枝先にも、よく見ると堅い花芽がついています。お互いが想像力を働かせ、お互いの大切なものを尊重し合いながら成長していきましょう。